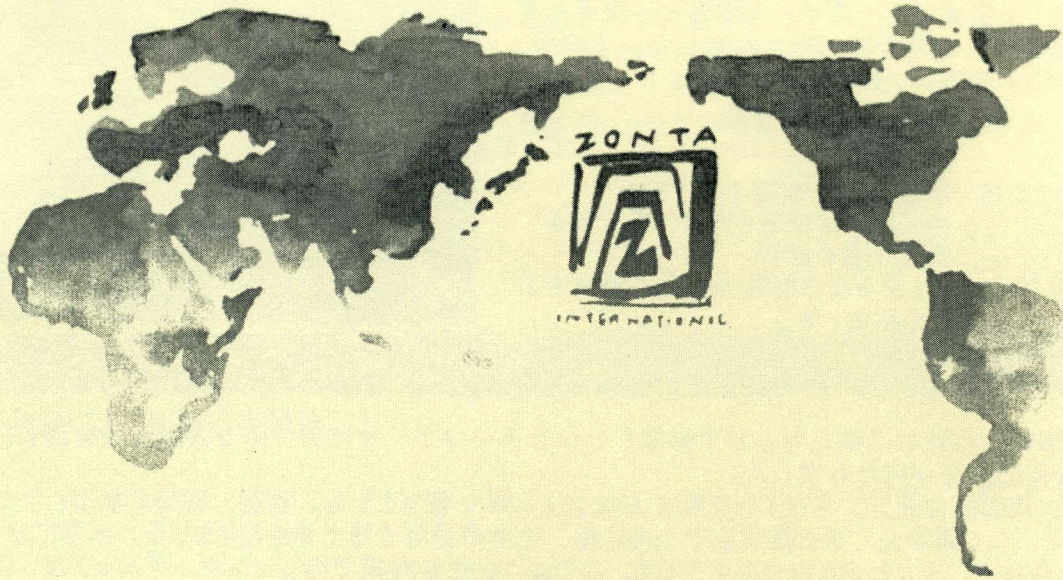


OSAKA・II ZONTA CLUB

大阪Ⅱゾンタクラブ第37号(2014年3月)



巻頭言

女性はいつまでもしなやかに美しく

会長 河村 さと子



2013年11月の例会において御歳106歳でいらっしゃる現役声楽家の嘉納愛子先生に卓話をいただきました。

嘉納先生のご自身の生い立ちや声楽に対する永年の熱い情熱や後進に対する温かい慈愛の思いを語って頂き、私ども一同、深い感銘を受けました。

その中で一番私が鮮烈な記憶に刻ませて頂いた事は、嘉納先生の業績以上に、先生の女性としての外見の美しさ、精神の若々しさ、そして、ご自身の人生そのものをしなやかに自然に受け入れていらっしゃるそのお姿でした。

私達は職業人として、自分の能力を通じて自分の評価を高めると同時に、国際ゾンタの一員として、奉仕活動の実績をあげるべく努力していますが、そのような活動や行動以前に、まず、女性としての存在の美しさそのもので多くの人々に素晴らしい影響を与えていきたいと改めて強く思いました。

嘉納先生は、2014年1月1日に107歳のお誕生日を迎えられます。日本にこのような素晴らしいシニア・レディがいらっしゃることは、私たちの最大の誇りです。



2013.11.14

2013年11月例会

地区大会報告

笠置 伸子



2013年10月10日(木)～12日(土)、岡山コンベンションセンターに於て、マリア・ホセ 次期国際会長をお迎えし、第12回地区大会が開催されました。私は、11日(金)、第1回ビジネスセッション、公開シンポジウム及び、パネルディスカッションに参加致しました。

10月中旬になっても気温が高く蒸し暑い様な気候でしたが、会議場は、三宅ガバナーのリードのもと、次々と手際よく承認と贈呈式、各報告等が行われました。その後、審議事項に移り以下の事項が採択されました。

- ① 2018年「第64回 国際ゾンタコンベンション」を日本招致する
賛成 49名／反対 2名／棄権 1名で採択
- ② 2014年日本(26地区)の事務局を東京に設置する
賛成 57名／棄権 1名で採択
- ③ 「女性と女兒に対するあらゆる形態の暴力の撤廃および防止」を26地区の総意とする

(大阪Ⅱは、9月12日に例会が行われましたが、①②を審議する内容のFAXが届いたのが9月13日だった為、時間の都合上、審議ができず棄権となりました)



午後は、「国際的な女性の活躍とキャリア形成」というテーマで、マリア・ホセ次期国際会長と、山崎直子国際ゾンタ名誉会員の対談が行われました。

マリア・ホセ次期国際会長は、スペインで男3人女2人の中で育ちました。言語、物理を学ぶことに興味を持ち、12才から奨学金につぐ奨学金、また奨学金で1982年、化学の分野で博士号をとりました。大学ではほとんど男性が占める中、女性は2、3人と少なかったそうです。このような化学技術でのジェンダーギャップは、2011年では、労働力の半分は女性であるにも関わらず化学技術者は4分の1という状態になり、悪いことにさらに減少しています。以後、'70年代から増加傾向にありましたが、再び'90年代から減少し、資格を持って労働しない女性が7.5人に1人、男性は10人に1人という現状です。

この背景には、女性が人の世話をするという考えが未だ定着してつきまとい、化学、工学の分野でも、同じ仕事をしていても女性の収入が20%少なく、結果、技術面でも女性は取り残されているとのことでした。

子どもを持つ事は、女性だけの問題ではなく、男性と社会の問題でもあり、男性vs女性ではなく、男性と女性が協同参画してより良い社会を作ることが重要であり、また社会においても男性だから雇用する、女性だから雇用するという事ではなく、個人の能力を尊重して雇用することが重要だと主張されていました。

大切な問題は、私たちの心の中にあり、社会が私たちを変えるのではなく、私たちが社会を変えていくのである。ということ強く訴えられていました。退職した後は、女性がエンジニアになれる学校を作り、女性のキャリア形成に役立ちたい。とのことでした。

山崎直子名誉会員は、子供の頃、月と土星の環を観察して、その美しさに感動し宇宙に興味を持ったそうです。中学のときにアメリカの学生と文通し、海外の事を知り、大学に入ってからゾンタの奨学金で留学しました。エンジニアの分野では、アメリカは約半分を女性が占める一方、日本では50名のうち1～2名しか女性がいません。宇宙飛行士の訓練を行うのも、アメリカ、ロシア、ヨーロッパです。

このような状況のもと、夫と子どもをどうしたらいいかということで悩み、家族が同行する時、夫の就労許可が下りなかったり、女性が死亡した際、男性配偶者には年金保証がない事や夫は宇宙ステーションの管制官ですが、アメリカではなかなか仕事に就くことができない等の問題がありました。ある時は全くの父子家庭、ある時は母子家庭という状況を経ながら、家族の協力と理解がとても重要で、コミュニケーションを上手に取ることが大事だと感じられたそうです。

今後は、星を観察したり、教材を配ったりして宇宙に興味を持つ人を啓発していく活動を行っていききたいとのことでした。

その後、「女性のキャリア形成と経済の活性化」をテーマに、三隅佳子アドボカシー委員長、有馬真喜子NPO法人UN Woman国内委員会理事長、石川康晴株式会社クロスカンパニー代表取締役社長、住田裕子弁護士(元検事)、堂本暁子前千葉県知事(元参議院議員)、以上5名によるパネルディスカッションが行われました。

三宅ガバナーはじめ、地区役員、岡山ゾンタの皆様にご心より感謝致します。



地区大会報告

河村 さと子



2013年度の岡山での地区大会に参加しました。

地区大会のプログラム及び審議内容、決定事項等につきましては、後日、各会員に冊子報告書が配布されますので、詳細については、今回は割愛させていただきます。

ここでは、私の個人的な地区大会への参加体験談及び感想を述べたいと思います。

10月7日、ガバナー三宅定子氏からの要請で、マリア・ホセ・リエゾンの関西空港到着のお出迎えを他のゾンシャン7名とともに致しました。デンマーク・コペンハーゲンからご主人、そして、2人のお子様たちが付き添われており、慈愛に満ちた素晴らしいファミリー像を、まず私たち一同に見せてくださりまして、到着初日から全員の気持ちは一気に和みました。

その後、ファミリーは京都などを観光されて、10月9日には岡山に到着、そこで岡山市民との様々な交流をされました。

10月10日、地区大会開会式で、私は日本国歌「君が代」とリエゾンの母国デンマーク国歌を原語で演奏いたしました。私は、デンマーク語は初めてでしたが、様々な方法で練習をした甲斐がありまして、マリア・ホセさんに大変喜んで頂き、涙ぐんでいらっしゃいました。

開会式そのものは、シンプルで清々しいもので、心がこもっており、大変よかったと思います。

10月11日のビジネスセッションは、私は仕事の都合上、欠席、西村博子会員に会長代理をお願いいたしました。

10月12日は、メモリアルサービスに引き続き、ビジネスセッション及び決議事項採択が行われました。

その夜には、フェアウェルパーティーが行われ、余興に津軽三味線演奏等があり、華やかな中にも和気あいあいの楽しい会でした。パーティーの終盤、私のソプラノ演奏のタイムがあり、開催地の岡山市に敬意を表し、「中国地方の子守歌」を披露、引き続き、「浜辺の歌」「アベマリア」「歌に生き、愛に生き」等の歌を歌い、皆さんに楽しんでいただきました。

翌10月13日には、マリア・ホセ・リエゾンのファミリーとともに、直島観光をし、直島のアートフェスティバルを鑑賞しながら、最後の地区大会の締めくくりを致しました。



マリア・ホセ・リエゾンを関空までお出迎え



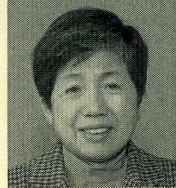
2013.10.13



地区大会終了後の直島へのエクスカーショ

四恩学園訪問

幡山 玲子



11月1日、平成25年度第2回目の奉仕活動として、住吉区荻田にある社会福祉法人四恩学園を訪問しました。参加者は、笠置委員長をはじめ、牛田、辻、中塚、西村、幡山、久岡、宮本、芳川のフルメンバー9名でした。

四恩学園は、その前身である「四恩報答会」が大正時代(1915年)に創設されて以降、ほぼ100年もの長い間、大阪南部地域のかなめとして様々な福祉活動を行ってこられました。四恩学園は、もともと浄土宗の青年僧侶たちが釜ヶ崎でセツルメント活動を行ったのがその始まりなことから、名前の四恩も仏典に由来しています。父母の恩、社会の恩、自然の恩、御仏の恩を示す四恩を学園の理念として、「0歳から100歳超までの、安心して楽しい『居場所』四恩学園」というキャッチフレーズに象徴されるように、乳児院、児童養護施設、保育園、児童館、デイサービス、包括支援センターと多くの福祉事業を280名という大人数のスタッフで展開されておられます。

特徴的なのは、夜間保育や、乳児保育、病後児保育など、働くお母さんたちにとってとてもありがたいサービスを提供しておられることです。また0歳児から高齢者までが集う施設であるため、少子高齢化社会では難しくなった、幼子・児童と高齢者がふれあうことが日常的にできる施設でもあります。

その高齢者と保育園児、学童を前に、当日銭太鼓の踊りとハンドベルの演奏を披露させていただきました。宮本会員の自宅を借りて、ハンドベルや銭太鼓の練習を皆さんのスケジュールを調整して行ってきましたが、なぜか銭太鼓の最後の踊りを4番目の踊りに間違えてしまいました。いつになく上がっていたのかもしれませんが。いつもは何番目と頭の中で数えているのですが、その日は最後に頭の中が真っ白になってしまいました。

続いてハンドベルの演奏です。リズムが伴奏と合わないところがありましたが、聴衆の皆さんの歌声に助けられて何とか終わることができました。古時計のアンコールのお声をいただいたのですが、残念ながらテープの関係で森の水車を演奏しました。

最後に、活動の一助となればいいのですが、ささやかな寄付をさせていただきました。

今回は私にとって奉仕活動2回目の本番でした。1回目は何もよくわからないまま無我夢中で何とか終わりました。2回目となると、銭太鼓の動作一つ一つについて細かなところがわからなくなり、完全にできるか不安がありました。直前2日間練習をし、当日の朝も練習をして出かけたのですが、やはり不安は的中。苦い思いを胸に帰途につきました。

次は完全にマスターしたうえで、やったという満足感・達成感を抱いて帰れるようこれからも練習に励みたいと思います。



卓話報告

加納愛子先生をお迎えして

中塚 淳子



加納先生と私が初めてお会いしたのは先生が101歳の時でした。友人からNHKの公開講座に行きませんかとお誘いを受け参加致したときです。101歳と言う超高齢でいらっしゃるの、どんな方なのかと思っておりましたが、会場にお出ましになった時、白いパンツロンスーツを身にまとわれ、真っ白な髪の毛、素敵な眼鏡、化粧乗りの良い美しいお肌、そしてそのお口から出た艶やかなお話しぶり、もうびっくり致しました。あまりの気品有る美しさとお若さ、何よりも女性らしい魅力がおありになる方!!

もうすっかり虜になってしまいました。公開講座が始まり、ピアノをお弾きになり、山田耕作先生の御弟子でいらっしゃる先生は、「からたちの花」のうたが特にお好きだとか、耕作先生の曲想を良く理解され細かい所まで詳しく御指導下さいました。そしてその一節を自ら歌って下さり、その良く伸びる美しい歌声に、又又びっくり致しました。

世の中、こんな方がいらっしゃるんだなあ・・・と最初から最後まで、ただただ驚きで唖然としていた事を思い起こします。その後、「独身者ばかりが楽しく素敵な人生を送って行こう」と言う意味で「シングルベルの会」を立ち上げた第一回目の会に先生もご出席くださり皆がとても感激致しました。それは、先生の103歳の時でした。その後、何度かの音楽会や食事会にご一緒させていただくようになっていきました。その都度、先生のように美しく魅力的に年を重ねられたらどんなにいいだろうかと生活のリズムと毎日の体操、食事の管理、そして何より心明るく心優しく、心美しく過ごされている事を真似る様に心掛けて来ましたが、ついつい崩れてしまっ先生のように貫き通す事の難しさを感じております。そして、ゾンタの皆さまにもいつか是非御紹介させていただきたいと思っておりました所、おりしも、その機会を得る事が出来ました事を喜んでおります。

皆さまもきっと感激された事と存じます。我々も負けずに頑張っ参りましよう。加納愛子先生の素晴らしい人生に乾杯!!





11月3日秋たけなわの行楽日和に、新幹線のぞみで東京へ出発。東京に到着するとすぐ、東京ステーションギャラリーへ、此処は明治期を代表する建築家・辰野金吾の設計により、1914年に創建された東京丸の内赤煉瓦駅舎内に1988年に開館しましたが、2012年に復元工事をし、美術館も新しいスタートを切ったもので、今回はディスカバリー・ジャパンと題した生誕100年！植田昭治の写真展を鑑賞し、丸の内ドームの昔の煉瓦を残しながら、新たなモダンを吹き込んだ建物も味わい、昔からの東京を彷彿とさせる深い趣を感じました。その後タクシーで、皇居前の景観を眺めながら、日本橋の有名な寿司の店「鮎門」で最高に美味しい江戸前寿司を賞味し（大阪にもし開かれたら、日参したい！）一路 岩崎邸へ。旧岩崎邸庭園は岩崎彌太郎の長男で三菱第3代社長の久彌の本邸として造られました。往時は、15000坪の敷地に、20棟もの建物が並んでいたそうです。洋館は、日本政府の招聘により、本格的な西洋建築教育を行ったジョサイア・コンドル（鹿鳴館、上野博物館、ニコライ堂など多くの洋風建築を設計し、門下には、東京駅の設計で知られる辰野金吾、赤坂離宮を設計した片山東熊がいます）の設計により、1896年に完成しました。木造2階建・地下室付きの洋館は、本格的なヨーロッパ式邸宅で近代日本住宅を代表する西洋木造建築です。館内の随所に見事なジャコビアン様式の装飾が施されていて、同時期に多く建てられた西洋建築にはない繊細なデザインが、往事のままの雰囲気を漂わせています。

別棟として建つコンドル設計の撞球室（ビリヤード場）は当時の日本では非常に珍しいスイスの山小屋風の造りの木造建築で、洋館から地下道でつながっています。洋館と結合された和館は書院造りを基調にされていて、広間には、橋本雅邦が下絵を描いたと伝えられる日本画などが残っています。現存する広間を中心に巧緻を極めた当時の純和風建築をかいま見ることができます。

大名庭園を一部踏襲する広大な庭は、建築様式と同時に和洋併置式とされ、「芝庭」をもつ近代庭園の初期の形を残しています。これらをゆったりと散策しながら鑑賞し、宿泊先の完全会員制の東京ベイコートホテルへ到着。とてもしっかりと落ち着いた雰囲気のホテルで、セキュリティは、満点！（エレベータは、ルームキーを入れないと入れないし、他エリアへ行くにも、ルームキーでのセキュリティチェックで、ドアを開く仕組みです。）夜は銀河（東京ベイコート内の和食の店）で思いっきり美味しい料理を堪能し、自分の好きなフレグランスオイルで、リンパマッサージをしていただき、ゆったりとした夜を過ごしました。

翌日は駒場公園内にある旧前田伯爵邸をゆっくりと様々な説明を聞きながら散策しました。旧前田侯爵家駒場本邸は、旧加賀藩主の16代当主であった前田俊為（としなり）侯が家族と共に暮らすため、本邸として建設した建物で、家族写真も見せていただき、当時の貴族の生活を思い描きながら、昨日の岩崎邸との対比も面白く、拝見したのですが、駒場の約1万3千坪の敷地に、地上3階地下1階の建ての洋館と、これを渡り廊下で結んだ2階建て純日本風の和館で、昭和4年（1929年）に洋館が、昭和5年に和館が竣工しました。

次に、農家の出身で奉公人から身をたてた細川力蔵の説明と100段階などの説明を聞きながら、目黒雅叙園100段階を見学し、丁度空腹になってきた頃に、レトロ再現室で、東京での最後の昼食を締めくくるフカヒレコース（中華は定評あり！）を賞味いたしました。

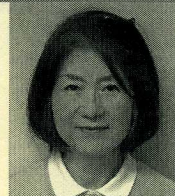
旧財閥、貴族、成金の建設物の対比がとても面白く、又旅行中の料理の選択が素晴らしく、この旅行を企画してくださった田中茂美先生の才能に驚嘆しながら、本当に楽しく、まさにディスカバリー・トウキョウ（全く違った面から東京を味わう）だなと思いました。本当に楽しい旅行で心から参加して良かった！良い思い出が出来ました。

紙面を借りて旅行を企画してくださった田中茂美先生に御礼申し上げます。



ベトナム訪問

辻 康子



大阪ⅡゾンタクラブはFUJI教育基金を通して2001年よりベトナムの子供たちの教育支援をはじめ、2006年からは障がい児学校の卒業生の自立を目的とした刺繍による職業訓練を支援してきました。昨年は、クラブの創立20周年を迎えましたが、このベトナム支援は10年間という長期にわたり続けているクラブの重要な支援活動のひとつです。

2013年11月30日より4日間、宮本会員、幡山会員、辻の3人は、大阪Ⅱゾンタクラブが「ベンチェ省貧困病人および身体障がい者と孤児支援会」(刺繍教室の面倒を見てくれている親団体)の設立10周年記念式典へ招待されたため、式典への出席とこれまで支援してきた職業訓練施設の見学のためにベトナムを訪問しました。

皆さまご存じの通りベトナムは1884年フランスの植民地となり、1946年に始まった植民地からの独立戦争がベトナム戦争へと続き、1975年に戦争が終了するまでの30年間戦火にさらされました。その後遺症として、多くの人が障がいを抱えることとなり、厳しい生活を余儀なくされているのですが、今回の訪問でベトナムの貧しい人々の厳しい現状を肌で感じ、私たちの寄付でどの様な支援が出来ているか改めて考えるきっかけとなりました。それと同時に、寄付がどのように有効活用されているか、見る事ができました。

12月1日：「ベンチェ省貧困病人および身体障がい者と孤児支援会」(以後支援会)の10周年式典出席と支援会の新たに作った診療所・私達の支援した職業訓練施設の見学

「支援会」の10周年式典は、ホーチミン(旧サイゴン)から南西へ約80km、車で約2時間のところに位置するベンチェ省の首都ベンチェで開催されました。宮本会員はアオザイ、幡山会員と私は着物で朝8時からの式典に出席。式典は午前中いっぱいかかりました。(早朝からの式典に着物での参加は大変でした。)FUJI教育基金の代表、ト・ブー・ルーンさんも招待されており終始一緒でした。

式典では、支援会に寄付をした団体や個人が支援会の会長からひとりずつ感謝の楯を受け取りました。また、寄付金で心臓手術を受けた患者や奨学金で勉学に励む若者など、支援会より援助を受けた人も紹介され、支援の成果を見たようで嬉しく思いました。またベトナム政府及びベンチェ省からの支援会メンバーへの貢献をたたえる感謝状贈呈式も同時に行われました。日本からも私達の外に10名あまり、その他海外からのお客様も何人かありました。

式典のあとは、先方の用意された心づくしの昼食をいただき(ベトナムでは有精卵で、特に孵化直前の卵をゆで卵にするのがご馳走なのか?ゆで卵の中から羽や骨がでてきた時はびっくり!)、午後は引き続きプアーペイシェント(貧困病人)の診療所と大阪Ⅱゾンタクラブが昨年創立20周年記念事業とした職業訓練施設を見に行きました。この改修は、ホールと6教室と事務室、トイレを建設しましたが、古い建物ではまだそのままでした。教室では私達が見慣れた図柄の刺繍作業が行われていました。この刺繍作業をする少女たちは全員耳が不自由ですが、屈託のない笑顔で私たちを迎えてくれました。隣の部屋はミシンが20台配置された縫製クラスです。クラブではミシンを10台寄付しましたが、あと10台はその後寄付されたそうです。縫製技術を身につけると就職しやすいので人気があるとのことでしたが、多くのミシンがあればもっと多くの子供たちの自立につながるはず。それぞれのミシンには寄付した人の名札がぶらさげられてあり、大阪Ⅱゾンタクラブの名前も見つけました。和歌山ゾンタクラブの名札もありました。



12月2日：メコンデルタ観光

メコンデルタの中州に刺繍教室の世話をして下さっている元の副校長先生ディエップさんのご親戚のお宅に伺いました。ニッパヤシ、リュウガン、パパイヤ、ジャックフルーツなど南国の植物が豊かに茂る島で、ディエップさんの弟さんや姪御さんなどご親戚の方々が庭のココナツを採ってジュースをご馳走して下さい、ゆったりと流れる時間に昨日の公式行事から解き放たれた解放感を楽しみました。その後ガイドの勉強中という姪御さんの案内でボートでメコン川を渡り、お寺に行きました。そこは観光スポットでココナツキャンディ製造場では、ココナツ絞りからキャンディをひとつひとつ紙にくるみ箱詰めするまで、すべて手作業ながら手際よく出来上がっていく様子にしばし見とれました。昼食には“象の耳”という名の魚のから揚げや風船餅など珍しいお料理をご馳走になりました。



最終日はホーチミン市で過ごし、戦争博物館へ行きました。当日は「障がい者の日」で、大勢の若者や大学生のグループが見学に来ていました。戦車や大砲の実物、牢獄「トラの檻」まで復元され、ベトナムの歴史がたくさんの写真やパネルで説明されており、戦争の悲惨さで胸が押しつぶされそうでした。博物館では、近い将来2020年には勤勉な労働力で農業国から工業国になることが目標との決意でまとめられていました。

今回の旅行でFUJI教育基金代表のト・ブー・ルーンさんに大変お世話になり、感謝しております。たった4日間ではベトナムのほんの一部しか見ることができませんでしたが、有意義な時を過ごすことができ、観光旅行では得難い経験をたくさんさせて頂いたと思います。

心に残るエピソードとしては・・・ベトナムでの初日、ホーチミンからベンチェに向かう途中、2人の警官に車を止められました。スピード違反も何の違反もしていないのに“罰金”を取られました。ルーンさんの説明によると罰金を支払わないとかえって厄介なことになるので、すんなり払っておくのが得策とのこと。“罰金”は警官の飲み代になるらしいのです。「これは理不尽！」と日本人の私達には納得できませんでしたが・・・そのほか、ベンチェのホテルでエレベーターに私達3人閉じ込められ怖い思いをしたこと、ホーチミンでも時々停車し、しまいにはそれにも慣れたことなどほろ苦く思い出します。農民の生活や民話を描いた珍しい水上人形劇も素朴で可愛く楽しかったです。ベトナムの食事は野菜、魚を中心にとても美味しく、日本人の口に合うと思えました。コンデンスミルクをたっぷり入れて飲むベトナムコーヒーは疲れを取ってくれました。

最後になりましたが、大阪Ⅱゾントクラブがベトナムとの絆を今まで育み続けてこられたのは、宮本会員とルーンさんの「恵まれない子供たちを支援したい」という強い信念で結ばれた信頼関係のおかげであることを改めて感じました。感謝とともにこれからも支援が続けられますよう、心にとどめていけたらと思います。

会員の活動

市議員選挙に初当選して思うこと

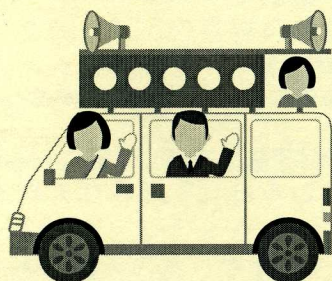
白石 たづ子



私が長岡京市議選に立候補したのは自分自身の老後、このまちで本当に安心して老いていけるか・・・？独居老人となる自分自身を考えた時、とても不安になりました。それでまだ少しでも若く、いろいろ考えたり行動できるうちに、自分で安心して老いることのできる地域にしておきたいと、そして両親とも83歳、母は現役で卓球をやっており、父は夜通しFacebookでお友達と近況報告をしあっています。そんな両親もいつかは認知症や寝たきりになってしまう・・・私ひとりでどうしよう？もっと地域のことを知っておかなくては・・・そんな思いからでした。それでも選挙は厳しい。普段から昼間住民でない私は、知名度なんて全くありません。まして無所属、組織なし・・・定数2名減という本当に厳しい状況の中でなんとか当選することができましたのは、国の政党の風向きだけではなく、市民の皆さんが東北の震災以来、地域のつながりを大切にしたいと思う気持ちが強くなっている。また認知症の初期のケア体制、ひとり暮らしの高齢者の見守り、また元気な高齢者が活躍できる場所、子育て世代の仕事と仲間、そんなものを一緒に作って行きましょう！という思いに賛同して下さったからだと思います。不安な気持ちは誰しも同じ、自分から一歩踏み出してみても良かったと思います！

つまり共に支え合えるまちづくりですね、元気な高齢者には「地域で高齢者に何ができるか」というよりは「地域で高齢者に何をやってもらうか」の方が、よほどお互いに利益が大きいと思います。何を行うにもリーダーシップが必要であり、高齢者施策についてはセンスが重要なのではないのでしょうか？

生きていくことに希望を感じることができる、明日は今日よりも良い日になると信じて生きていける。私はそんな当たり前のことを大切に悲しみや苦しみに寄りそい、支え合い希望と幸せを実感できる暮らしのお手伝いをするのが使命だと感じました。これからの市議会は、市政のチェック機能だけでなく、多様な人材、様々な専門知識をもった人材が、自分たちで課題を見つけ、その解決法を議論していく場でなければならないと考えております。政治は弱い人のためにあるという原点を忘れずに精進したい。初めての選挙を通じてそんなことを思いました。



自己紹介

佐野 由紀子



自己紹介をというお話ですので、思いつくままに、ゾンダクラブとは関係ないお話だと思いますが、書かせていただきます。

昭和 27 年 9 月 4 日生まれです。この 9 月で 61 歳になりました。自分では以前と変わらないと思っているのに、年だけがどんどん私を通り越していくようです。静岡市に生まれ、高校まで静岡で過ごしました。大学進学で大阪に移り、ここ河内長野市で昭和 59 年に耳鼻科を開業し、もう 30 年近くなります。

河内長野とは縁もゆかりもなかったのですが、主人の友人の紹介で住むことになりました。河内長野市は大阪人にとって、随分へきちだと思われる(?)ようですが、山に囲まれて自然も多く、果物も豊富で、ちょっと交通の便は悪いですが、私は気に入っています。

血液型は O 型です。決断力は早い方だと思いますが、言い換えればおっちょこちょいです。よく言えば素直、すぐなんでも信じる方で、そのため、いろいろと失敗もしてきました。なんでも始めるのは早い方だと思いますが、じっと続けるのは苦手です。

主人も耳鼻科医で、医局の人事であちらこちら行きましたが、最後は府立母子医療センターで、この 4 月に定年を迎えました。私はそれを待ち構えていて、この 5 月から、うちの診療所を半分ずつということで仕事をしています。子供ふたりは医者になっていますが、いい年をしてふたりとも独身でこれが最大の悩みの種です。

趣味は、下手なゴルフと旅行、海外旅行をしようと ECCに通っていますが、なかなか上達しません。それと、おいしいものを食べて、お酒を飲むのが大好きです。お酒はなんでもオッケーですが、今はワインにはまっています。

ゾンダクラブに入会させていただいたのは、大阪府女医会のゴルフコンペで、内藤先生に誘って頂いたからです。いろいろな経験してみたいと思ったのと、もし、私でもできるボランティアがあればしてみたいと思っております。この会に加えていただいて大変光栄だと思っております。いい年をして頼りない私ですが、どうぞ、よろしく願いいたします。

ともだちの(わ)リレー・エッセイ

私の歌手デビュー(笑)

岡田 千佳子



音楽は好きだけど、演奏できる楽器はない。歌は好きだけど、歌える歌はない。カラオケに誘われても、手拍子して、拍手で盛り上げはするけれど、なるべく歌わないようにしていました。そんな私が、今年 7 月 27 日、北新地のアヴェンヌで歌手デビュー(笑)しました。びっくりです。

ソング大阪Ⅱ会長の河村さと子さんは、ソプラノ歌手で、『歌笑塾』をひらかれています。笑いをまじえての歌唱指導ということでしょうか?彼女のボイストレーニングは想像を絶するものです。できるだけ色っぽく「あーん、だめ、やめて」、子供が駄々をこねるように「あー、あー、買って」、サイレン「ウーウー」、できるだけやる気のなさそうに「なむあみだぶつ」。さと子さんは、ご自宅で宝塚の生徒さん達に歌唱指導をなさっています。「やめて〜」「助けて〜」と発声練習をするものですから、警察に通報されるおそれがあり、二重窓で防音をより強固になさったらしいです。

最初に教えてもらった歌は、高橋真梨子の「フォーユー」「なむあみだぶつ、なむあみだぶつ、なみだをふいてあなたの指で」、あ、違いました。「なむあみだぶつ、なむあみだぶつ、お尻をふいて、あなたの指で」というユニークな指導です。

さと子さん、歌笑塾のおかげで、この私も「ハナミズキ」を人前で歌えるようになりました。一青窈さんの名曲で、「きみと好きな人が、100 年続きますように」のフレーズのためか、結婚式に歌われることもあるようです。でも、歌詞をみると実はこの曲は亡くなった人への鎮魂歌、あるいは、まだこの世に留まる者があの世に先に逝ってしまった者に思いを馳せる歌であることがわかります。今年 5 月に親友を肺がんで亡くしました。その「ハナミズキ」を歌手デビュー(笑)の時、彼女に捧げることができました。生前、彼女とカラオケに行っても、私は何も歌えませんでした。これからは、彼女の分も歌っていきたいです。

編集後記

年末年始の慌ただしい時季が過ぎ、ようやく広報編集作業にとりかかりました。広報委員長となって5回目の編集作業、もう少し進歩があってもよさそうなものなのに、相変わらずおしりに火がついてから慌ててドタバタとりかかっています。原稿に目を通して見ると、大阪Ⅱゾンダクラブの活動と共に会員もそれぞれ活発に活動しておられる様子が伝わってきて頼もしい限りです。今年も元気で楽しく活動が続けられますよう、みなさんががんばりましょう。

辻 康子